

【プログラム#8】 100年前の大変革考察と未来へのメッセージ 10月31日(木) 13:55~15:00

ファシリテーター

峯野 アグネス
日野自動車 (株)

スピーカー 1

Stephen Laing
British Motor Museum

スピーカー 2

Matt Anderson
The Henry Ford

100年前の自動車の大変革と未来へのメッセージ

スピーカー: Stephen Laing (British Motor Museum)

20世紀の転換期には、初期の自動車利用者と自動車メーカーが、多くの人々から人間の感覚や地球そのものに対する侮辱と見なされていた自動車を公共の生活に確立するために闘いました。新しい技術についても優位性を求め競争が激化しました：ガソリン、蒸気、電気。これらは激しく擁護されたり拒絶されたりしました。これはなじみ深いですね？2024年について話しているかのようです！100年前、自動車は受け入れられ、人々のさらなる要望に応えるものとなりました。英国のオースティン・セブンなどの大量生産で手頃な価格の自動車が、自動車保有数の絶え間ない上昇を引き起こしました。さらに、20年代から自動車が私たちの景観や都市の街路を形作ってきました。私たちの移動手段やコミュニティは、自動車によって形作られてきました。今日、自動車はまだ多くの人々にとって自由を象徴していますが、社会にとっては課題となることもあります。現代の自動車博物館は、どのように前を向き、バックミラー（過去）に焦点を当てながら現代（21世紀）との関連性を保ち続けるのでしょうか？

100年前の大変革と未来へのメッセージ

スピーカー: Matt Anderson (The Henry Ford)

アメリカ人は自動車を発明したわけではありませんが、それを受け入れ、すぐに自分たちのものになりました。間もなく、自動車は裕福な人々のおもちゃから、日常生活の必須の道具に変わりました。フォード・モーター・カンパニーは、革新的な材料と方法を使って作られた手頃な価格のモデルTで先駆けを行いました。自動車は他のどの発明とも異なるように、アメリカの文化と景観を再構築しました。